

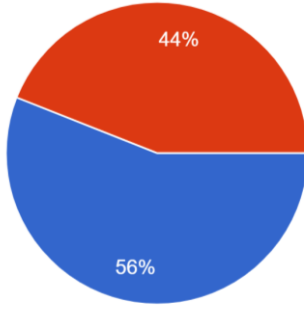
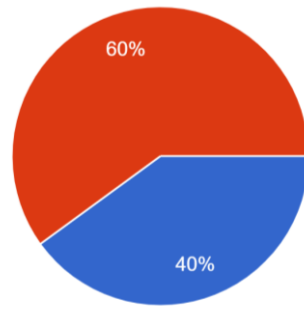
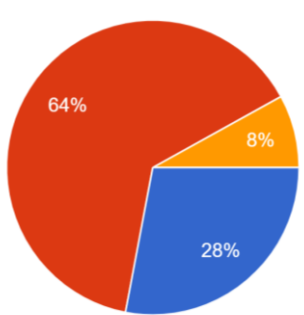
【分析方法】

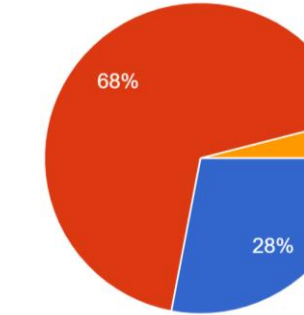
4件法（A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない）でアンケートを実施した。評価された項目の割合を円グラフで示すとともに、参考としてAから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し、それぞれ平均値を算出した。保護者アンケートについては、前年度から改善された項目などを把握するため、年次比較も合わせて行う。回収率は、職員が100%, 保護者が98%であった。

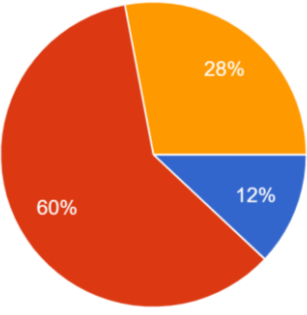
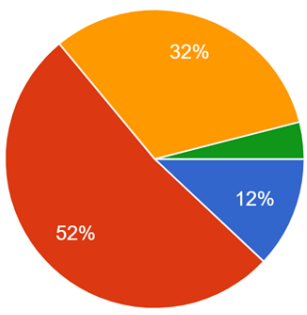
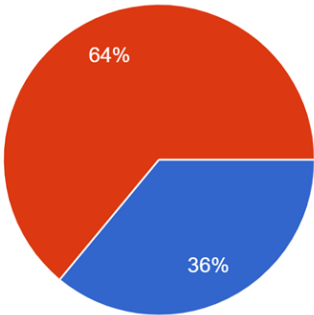
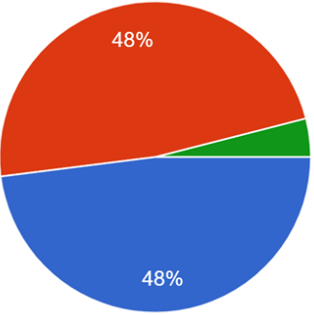
I 学校経営努力点

1 評価結果（数字は平均値）

(1) 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導や必要な支援を充実する。												
<p>ア PDCA サイクルに基づいた個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式の見直しや活用による、指導・支援の在り方を再確認する。</p>	<p>● A: 達成 ● B: ほぼ達成 ● C: あまり達成されていない ● D: 達成されていない (未取組)</p>	<p>点数化による 平均値 上: 今年度 下: 昨年度</p>										
	<table border="1"> <caption>Item A Data</caption> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>16%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>76%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>8%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	16%	B (ほぼ達成)	76%	C (あまり達成されていない)	8%	D (達成されていない)	0%	<p>3.1 2.7</p>
Category	Percentage											
A (達成)	16%											
B (ほぼ達成)	76%											
C (あまり達成されていない)	8%											
D (達成されていない)	0%											
<p>イ 授業ミーティングを活用して、資質・能力の育成の視点による授業改善を行う。</p>	<table border="1"> <caption>Item I Data</caption> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>16%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>64%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>20%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	16%	B (ほぼ達成)	64%	C (あまり達成されていない)	20%	D (達成されていない)	0%	<p>3.0 3.1</p>
Category	Percentage											
A (達成)	16%											
B (ほぼ達成)	64%											
C (あまり達成されていない)	20%											
D (達成されていない)	0%											
<p>ウ ICTを活用した実践に努め、実践事例集を作成する。(昨年度検討新規内容)</p>	<table border="1"> <caption>Item U Data</caption> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>8%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>40%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>48%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>4%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	8%	B (ほぼ達成)	40%	C (あまり達成されていない)	48%	D (達成されていない)	4%	<p>2.5</p>
Category	Percentage											
A (達成)	8%											
B (ほぼ達成)	40%											
C (あまり達成されていない)	48%											
D (達成されていない)	4%											

(2) 児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。		
<p>ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を徹底する。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>
		<p>3.6 3.0</p>
<p>イ 危機管理マニュアルの見直しを行い、事故や災害等に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、児童生徒の生命・健康を守るための迅速できめ細やかな対応を行う。</p>		<p>3.4 3.2</p>
<p>ウ ヒヤリハット事案や安全点検に基づいた教育環境の整備を行う。</p>		<p>3.2 2.7</p>

(3) 附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る		
<p>ア 大学・学部の特例支援教育、教科教育等の教員との共同研究や県内外の特例支援教育関係者と連携した研究を推進するとともに、研究推進の効率化を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>
		<p>3.2 2.8</p>

<p>イ 学校や教師個々の研究テーマに基づいた実践研究により専門性を深めるとともに、教員相互に資質向上に努める</p>		<p>2. 8 2. 9</p>
<p>ウ 大学・学部と連携し、県や地域のニーズを把握し、還元性の高い実践的研究を推進する。</p>		<p>2. 7 3. 1</p>
<p>(4) 力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習の一層の充実を図る。</p>		
<p>ア 大学の改組や教員養成カリキュラムの開発と連動しながら、実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒への指導に関する実践力の養成及び指導教員としての指導力の向上に努める。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p> 	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p> <p>3. 4 3. 4</p>
<p>イ 介護等体験、高校免許取得者の実習、採用前実習等の企画・運営及び教職大学院の実習の充実を全校態勢で進める。</p>		<p>3. 4 3. 3</p>

(5) 児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす												
<p>ア 児童生徒の学習環境の向上と附属学校としての責任を果たすため、施設設備、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>										
	<table border="1"> <caption>Item A Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	16%	B (ほぼ達成)	76%	C (あまり達成されていない)	8%	<p>3. 1 2. 6</p>		
Category	Percentage											
A (達成)	16%											
B (ほぼ達成)	76%											
C (あまり達成されていない)	8%											
<p>イ 学校見学会や体験学習、ホームページ、広報紙などを通じて学校の機能を広く発信するとともに、児童生徒の余暇活動の充実に向けた積極的な支援を行う。</p>	<table border="1"> <caption>Item I Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>12%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	24%	B (ほぼ達成)	64%	C (あまり達成されていない)	12%	<p>3. 1 3. 3</p>		
Category	Percentage											
A (達成)	24%											
B (ほぼ達成)	64%											
C (あまり達成されていない)	12%											
<p>ウ 児童生徒が主体となつて行う、地域貢献活動の可能性について検討し、試行する。(今年度新規努力点)</p>	<table border="1"> <caption>Item U Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>D (達成されていない)</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	4%	B (ほぼ達成)	28%	C (あまり達成されていない)	60%	D (達成されていない)	8%	<p>2. 1</p>
Category	Percentage											
A (達成)	4%											
B (ほぼ達成)	28%											
C (あまり達成されていない)	60%											
D (達成されていない)	8%											
<p>エ 全職員や保護者と共に業務の削減と改善に取り組み、働き方改革を推進する。(昨年度検討一部新規内容)</p>	<table border="1"> <caption>Item E Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>D (達成されていない)</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	0%	B (ほぼ達成)	68%	C (あまり達成されていない)	28%	D (達成されていない)	4%	<p>2. 6</p>
Category	Percentage											
A (達成)	0%											
B (ほぼ達成)	68%											
C (あまり達成されていない)	28%											
D (達成されていない)	4%											

(6) 教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。												
<p>ア 幼稚園、保育所・小・中・高等学校在籍の、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の ニーズに応じた支援を行うとともに、就学前教育相談の充実を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>										
	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>40%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>60%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	40%	B (ほぼ達成)	60%	C (あまり達成されていない)	0%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 4 3. 3</p>
Category	Percentage											
A (達成)	40%											
B (ほぼ達成)	60%											
C (あまり達成されていない)	0%											
D (達成されていない)	0%											
<p>イ 附属学校園特別支援教育推進研究委員会の機能化を図り、大学・学部・附属学校園と連携した巡回相談やスキルアップセミナーの実践等を通し、特別支援教育の一層の推進を図る。（一部新規内容）</p>	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>24%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>64%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>12%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	24%	B (ほぼ達成)	64%	C (あまり達成されていない)	12%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 1 3. 0</p>
Category	Percentage											
A (達成)	24%											
B (ほぼ達成)	64%											
C (あまり達成されていない)	12%											
D (達成されていない)	0%											

2 考察（学校経営努力点に関する内容）

- (1) 個別の教育支援計画と個別の指導計画、授業ミーティングの活用、資質能力の育成の視点による授業改善に関しては、80%の以上の割合で達成及びほぼ達成の評価であった。特に、個別の教育支援計画と個別の指導計画については、今年度カリキュラム・マネジメント委員会にて、書式や内容の検討を行い、提案された試案を実際に使用した。そのこと自体が高い評価につながったと考える。今後は、指導・支援の見直しという視点で、新書式を活用した結果の意見を集約し、充実した取組になるようにしていく必要がある。一方、ICT活用実践事例集については、昨年度の反省を生かし、より具体的な努力点となるよう「実践事例集を作成」としたが、「達成及びほぼ達成」の評価と「あまり達成されていない、達成されていない」という評価が約半々という結果であった。自由記述の内容から考察すると、情報視聴覚係が企画したアプリ活用に関する夏の職員研修を「実践に努めた」と評価している職員や職員研修の各グループが提案したアプリの活用例をまとめたものを一つの実践事例集として評価している職員もいる。事例集の具体的な物を各々の職員がそれぞれでイメージしていたため、評価が半々になったと考える。GIGAスクール構想の実現という視点では、避けては通れない内容であるため、今後も継続して取り組む必要がある。
- (2) 児童生徒の安全指導・生活指導・保健指導に関しては、三つの努力点全て、92%以上で達成及びほぼ達成の高い評価であった。今年度は、特に感染症対策を常に考慮しながら、児童生徒が学校生活を送るために何度も職員間で協議した結果が反映されたと考える。今後も継続して、危機管理マニュアルの整備とヒヤリハット内容など職員間の共通理解を図っていきたい。
- (3) 実践研究に関しては、項目によって評価のばらつきが見られた。研究推進という内容は、96%の職員が達成及びほぼ達成と高い評価をしている。一方、大学・学部との連携や県や地域のニーズに基づいた還元性の高い研究の推進という視点では、36%の教員があまり達成されていない又は達成されていないと評価している。これは、過去6か年のカリキュラム・マネジメントに関する研究が終わり、新たな研究テーマを模索しながらテーマ設定に向けて動き出した一年であったことと努力点ウの項目が今年度新規内容であり、職員間で努力点の到達イメージをそれぞれもっていたことが背景として考えられる。次年度は、2か年研究のまとめとして研究公開を予定しているため、発信という視点で努力点の内容が加われれば、より評価しやすい項目になると考える。
- (4) 教育実習に関しては、二項目ともにほとんどの教員が「達成及びほぼ達成」と評価しており、高い評価

であった。本校の使命の一つである教育実習校としての役割を十分果たしていると考え。今年度は、教育学部と幾度と感染症対策を協議し、実施可能な教育実習の形態を模索しながら教育実習を行ってきた。今後もますますニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や令和3年度に改組される教職院大学院実践実習の在り方など、教育学部と連携して取り組んでいく必要がある。

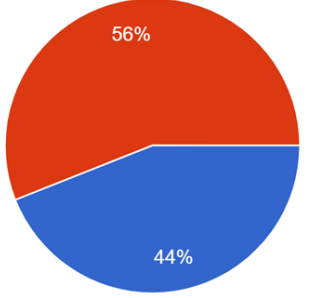
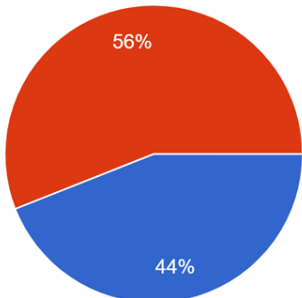
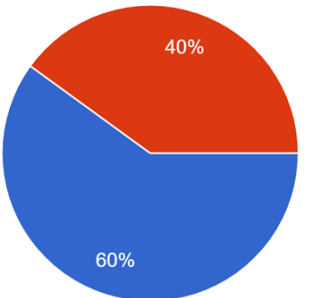
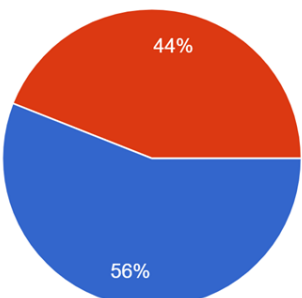
- (5) 地域に開かれた学校という視点で学校見学会や体験学習に関しては、9割近くの教員が達成及びほぼ達成と評価している。今後も、ホームページ等を活用して教育活動等を広く発信していき、地域のニーズに応じていきたい。アの施設設備、情報機器、教材・教具の整備・充実に関しては、昨年度学校経営努力点全項目の中で一番低い評価となっていた項目であるが改善されつつある。一方、項目ウの「児童生徒が主体なっていく地域貢献活動の可能性について検討し試行する」ことに関しては、72%の教員があまり達成されていない又は達成されていないと評価している。新規内容でなることと感染症予防の観点から今年度は地域に出掛ける活動も制限されたことが背景にあると考える。さらに項目エの働き方改革の推進に関しては、約3割の教員が「あまり達成されていない」及び「達成されていない(未取組)」と評価している。感染症対策のために計画の見直しや改善、副案の設定等業務が増えたと感じている教員や保護者と一緒に取り組んだかどうか判断しにくかったと述べている教員がいる。今年度の取組を次年度以降に業務の削減という視点で進めていくことで、改善ができると考える。
- (6) 教育相談等の充実に関しては、すべての教員が「達成及びほぼ達成」と評価していた。項目イの附属学校園特別支援教育推進研究委員会の機能化やスキルアップセミナーの充実に関しては、ほとんどの教員が達成及びほぼ達成と評価しているが、一部あまり達成されていないと評価した教員もいる。今年度は、感染症予防の観点で特別支援教育に関するスキルアップセミナーを実施することができなかったが、自由記述の意見にあるように、全国の附属学校の研修会や公開研究で実践例のあるリモートの活用を参考に実施可能な研修方法を模索していくことも考えられる。今後も継続して、附属学校園の特別支援教育の充実に向けて、本校がセンター的機能を果たして支援を継続していく必要がある。

II 校務分掌活動

1 評価結果

- A: 達成
- B: ほぼ達成
- C: あまり達成されていない
- D: 達成されていない (未取組)

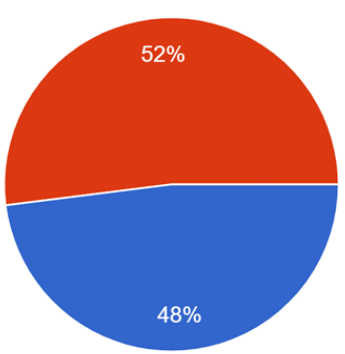
【総務部】

①教務・教育課程		③交流・人権同 和教育	
②教科用図書・公簿		④情報・視聴覚	

【自由記述】

- ・公簿の指導要録の変更に関しては、年を追って進めていくことが必要。学習の記録については、現時点では、書き方が明確にできていない部分がある。
- ・情報・視聴覚は、苦手な分野だったので、今後も夏季研修を実施してほしい。
- ・GIGA スクール構想の実現に向けて自分たちもアンテナ巡らせておかないとなど感じました。

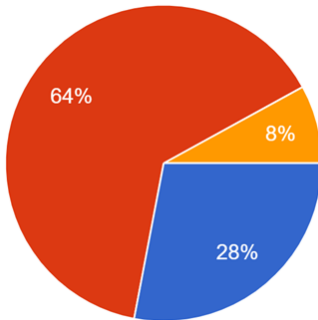
【教育実習部】

	<h4>【自由記述】</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の変更等が多く大変だったが、丁寧に提案，連絡が行われ実施することができたと思います。 支援が必要である学生への対応について，係を窓口 to 様々な対応への協力と理解が得られ指導教官として心強かったです。評価の在り方等の課題はありますが，まずはこうやって受け入れることができたことを評価していきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール調整等臨機応変な対応が必要で，係の負担が大きかったと思う。ST 授業については，教師の負担が増え，学生の学びが少なくなったように感じました（初めての試みだからか，CT として授業をしていたよりも受け身な学生さんが多いなど感じました）。 ・今年度変更されたST 授業については，教師の負担が大きいのと感じた。その分が学生の評価授業の教材研究に充てられて，余裕をもって授業に臨めれば負担の意味はあるが，それほど効果は感じなかった。まだCT として授業をしていた評価前授業の方が，子どもの前に立って授業をするという経験になり良かったのではと思った。 ・様々な学生がいるのは理解した上での意見です。配慮が必要な学生の実習受け入れについて，どこまでどのように認めるのか，きちんと線引きをすべきだと思います。配慮によって生じる職員の業務量や日程変更に伴う児童生徒への影響など，今年度は新型コロナウイルスの影響もあつたにせよ大き 	

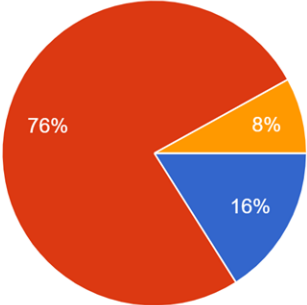
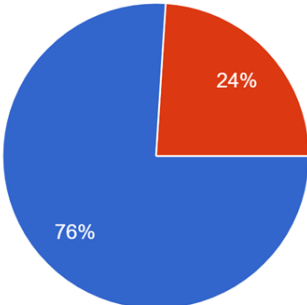
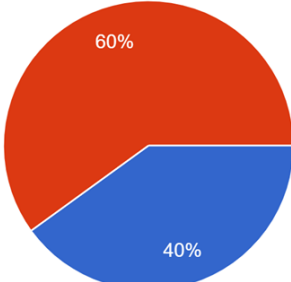
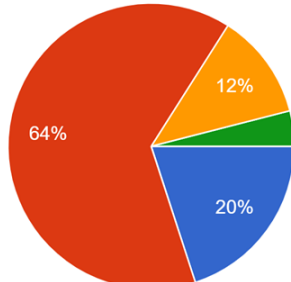
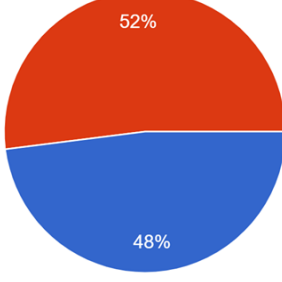
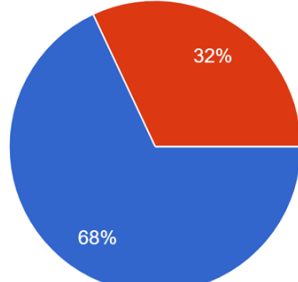
すぎたのではないかと思います。年々増えている2免教育実習生の人数も、このまま受け入れていくのか気になります。

- ・ 新型コロナウイルス関連で多くの検討、変更、工夫が必要だったと思います。本当におつかれさまでした。
- ・ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、来年度も教育実習の事前指導を遠隔で実施しなければならない状況が続くことが考えられます。それに対応することができるように、Zoomによる指導や資料の提供方法（本年度は、大学の学習管理システムを活用）などを体系化しておく必要があると思います。
- ・ 介護等体験は、新型コロナウイルスの感染状況によっては、本年度のように同一年度内で代替日を設けて実施する可能性があるため、実施計画の作成段階から代替可能日を準備（年間行事計画に加えておくなど）しておく必要があると思います。
- ・ コロナ感染予防のために、色々副案も考えておかなければならない状況でしたが、より早めの提案ができるとよいですね。

【研究部】

<p>研究 (公開研究) (職員研修)</p>	 <table border="1"> <caption>Research Distribution Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Red</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>Blue</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>Orange</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	Red	64%	Blue	28%	Orange	8%	<p>【自由記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究のために日々部会等を通して、取り組まれている姿に頭が下がります。研究のベクトルを決めるのには大変な労力が必要だと思います。働き方の観点からも研究の質と時間をどのようにバランスをとっていくのかを考えないといけないのかもしれない。そのためには、拡大研究部会を多用するのも一つの方法なのではないかと思います。
Category	Percentage									
Red	64%									
Blue	28%									
Orange	8%									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員全員で考えながら研究を進めることの難しさを感じました。各学部で取り組んでいる内容が違い、学部理論？学部研究？となってしまいました。学校研究としては、研究主任、研究部が主導権を握って進めていく部分と意見を聞く部分とあって良いのではないのでしょうか。 ・ 各学部でそれぞれで進めている感じが強かった。3学部の校内研がもう少し早く終わった方が、3学期のスタートがスムーズに切れるのでは。 ・ これまでとは違う帰納的な研究に少し戸惑いました。 ・ 新体制と新しい研究テーマのもと、いろいろと苦慮した一年間だったと思います。来年度に公開を実施することを想定すると、今年度中に公開までの大まかなスケジュールやゴール設定が決まるといいなと思うところです。学校全体で頑張っていきたいところです。 ・ 公開研究会の実施を見据えて、研究の着地点とそれに至る道筋を早い段階で共有できるといいと思います。 ・ 公開研究会については、リモートによる実施の可否など、運営の仕方について複数のパターンを考えておく必要があると思います。 ・ 来年の公開に向けて、テーマの内容少し絞ってもよいのかもしれない。 										

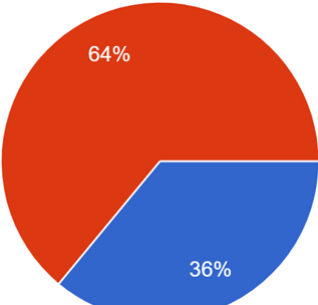
【支援部】

校内支援①		校外支援② 【早期教育相談等】	
校内支援②		校外支援③ 【小中学校等支援・スキルアップセミナー】	
校外支援① 【附属学校園支援】		校外支援④ 【入学選考委員会】	

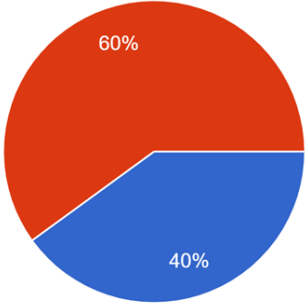
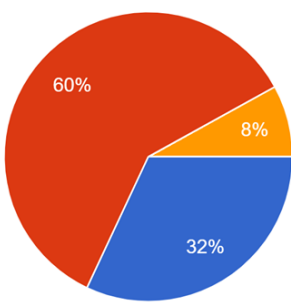
【自由記述】

- ・ 個別の指導計画の書式に Excel を用いている分、改定時には、情報教育係等との連携が今後必要である。
- ・ 個別の指導計画について、エクセルを使った書式に変更になり、非常に簡素化された印象です。合わせて教育内容を選択することで、例えば合わせた指導などで一つ一つの教育内容ごとに評価することで、その教育内容を授業計画に反映できていたのかどうかの教師への評価にもつながっていました。スキルアップセミナーについては、見取組という点からCにしました。
- ・ 書式等を見直したり、職員でも研修を行い考えを深めたりしたが、やはり記入が追い付かない。
- ・ 新しくなった個別の指導計画の取組にきちんとついていけていませんでした。必要なこととは分かっているながらも負担感を感じるのが正直なところです。
- ・ スキルアップセミナー等、外部への発信方法を今後考えていく必要がある。
- ・ オンライン活用のスキルアップセミナーも考えられそうですね。他の附属学校のオンライン研修の取組は参考になりそうです。

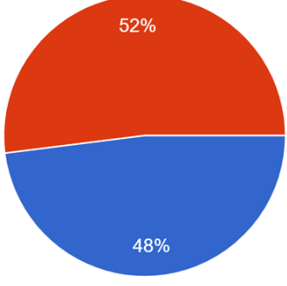
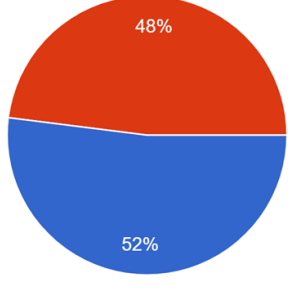
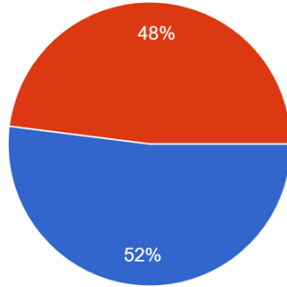
【自立活動部】

	<p>【自由記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片岡先生の発達に関する研修は、今後も行っていただきたい。カンファレンスを行う前に実施できると、カンファレンスも充実していくのではないかと思います。 ・ 片岡先生の新版K式の研修は、ぜひ継続して欲しいと思います。次年度は、バージョンアップした内容ができるとういですね
---	---

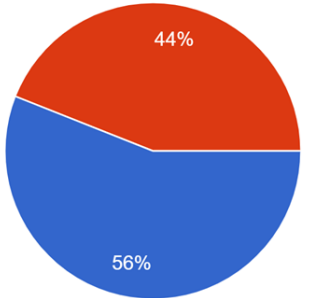
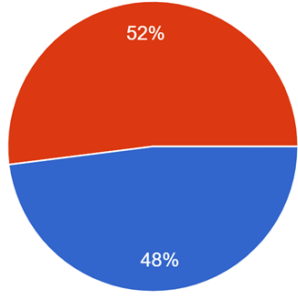
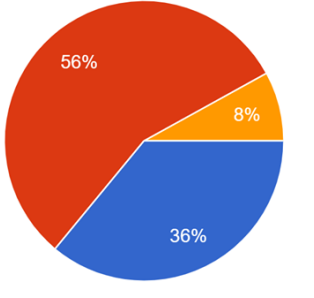
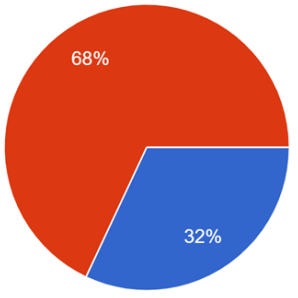
【進路指導部】

進路指導		卒業生支援	
<p>【自由記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後3年以内に進路変更をしている卒業生も何人かいるようで、気になりました。いろいろな要因があると思いますが、進路選択や日々の学校生活の取組に反映できる情報が共有できると思いました。 今年度については、新型コロナウイルス関連で、卒業生支援の機会自体が少なくなりました。 卒業生支援：卒業生の進路先での状況を受けて、進路指導部と旧担任が中心となって、実際進路先に出かけたり、学校で支援会議を開いたりして、継続的な支援がなされているなあと思いました。卒業生クラブはコロナ禍の中、内容を工夫されて実施されたと思います。 夏の研修の企画、毎年ありがとうございます。技能検定の実践ためになりました。 			

【生徒指導部】

①生活・通学・読書指導		③児童生徒会・HR	
②学校行事		<p>【自由記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> 40周年記念等の運営ご苦労様でした。児童生徒総会の思いを汲み取りながらみんなで作っている感が出せたのではないかと思います。実施が難しい中、対応を考えて実施可能な学校行事を運営できていた。 学校行事については、来年度も新型コロナウイルスの感染状況に応じた対応が必要になると考えられるので、本年度の取組を土台に実施内容等を検討できればと思います。 	

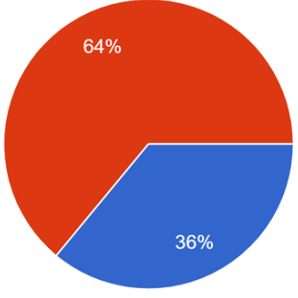
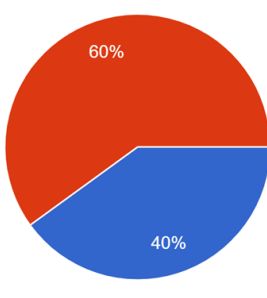
【保健指導部】

①保健・給食指導		③学校安全	
②体育指導		④環境整備	

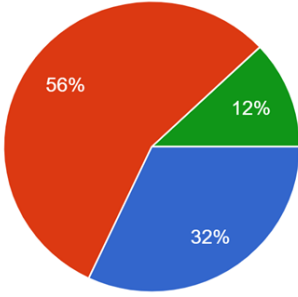
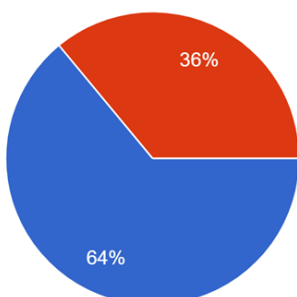
【自由記述】

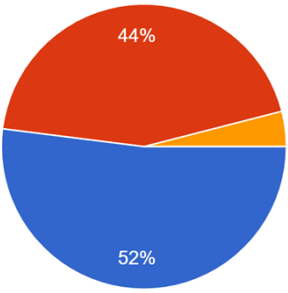
- ・新型コロナウイルスに関する、本校の実態に対応したマニュアル作成の検討
- ・農具（鍬やスコップ）などの新規購入，農機具（草刈り機等）の手入れを計画的に行うことが必要と考える。
- ・コロナ対策など手探りの状態でしたが，一つ一つ丁寧に説明や対策が用意され，見通しをもちながら取り組むことができました。
- ・手洗いや検温が定着し，みんなで予防に努めることができています。
- ・全体での運動会実施はできなかったが，規模を縮小しながらも学部で開催することができて良かった。
- ・環境整備に関して，必要に応じて職員作業を設定することができていた。

【渉外部】

広報・渉外		PTA	
<p>【自由記述】 特に記載なし</p>			

【分掌・その他】

一心会・明伸会		教職大学院	
---------	---	-------	---

<p>学校評価委員会</p>		<p>【自由記述】</p> <p>・一心会：学校評価に係る内容ではないかもしれませんが、一心会の会計報告が毎年行われたいのが疑問です。どこにお伝えすべきか・・・と思いかせていただきました。 対面では難しくても紙面でのやり取りで実施できた。</p>
----------------	---	--

2 考察（校務分掌活動に関する）

- (1) **総務部**の四つの分掌いずれにおいても、ほぼ、「達成」、「ほぼ達成」の評価を得ている。公簿に関しては、指導要録の改善に当たり、記入の仕方を校内で明確にしていく必要がある。情報・視聴覚に関しては、GIGAスクール構想の実現に向けて、先進校の実践等から学んだり、職員が実際にICT活用したりして、児童生徒の学びにつなげていきたいと考える。
- (2) **教育実習部**について、全教員が「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。学校経営努力点の一つである附属学校の使命である教育実習の充実に関する評価とほぼ同じ結果であり、相関があると考え。今後、改組になる教職大学院における特別支援教育プログラムの大学院実践実習の在り方など考慮していく必要があると考える。
- (3) **研究部**について92%の高い割合で「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。今年度は、新しい学校研究テーマ設定とその内容に向けて職員間の共通理解を図る1年であったため、戸惑いを感じた教員もいたようである。今後は、研究仮説、目的、内容の共通理解を図り、早い段階から実践を積み重ねて2月の研究公開に向けて研究を進めていく必要があると考える。
- (4) **支援部**では、校内支援、校外支援ともに高い割合で「達成」、「ほぼ達成」と評価している。今年度は、入学選考において受検者が増えたことにより、校外支援④入学選考委員会は、昨年度2割の職員のみが達成と評価していたが今年度は約7割の教員が達成と評価している。一方、校外支援のスキルアップセミナーに関しては、感染症予防の観点で実施できなかったが、自由記述にあるように国内の附属学校が研修会等をオンラインで実施している例を参考に実施可能なセミナーの検討も考えられる。
- (5) **自立活動部**では、全ての教員が達成、ほぼ達成と評価している。教育学部の片岡先生による職員研修が好評であり、継続を望む声が上がっている。保護者への検査結果の報告の仕方など押さえておく必要がある。
- (6) **進路指導部**については、進路指導と卒業生支援いずれも高い評価を得ているが、卒業生支援については、卒業後3年以内に進路変更している例もあり、背景や学校生活において取組に反映できそうなことなど情報共有が欲しい意見等が挙げられているので、夏の進路に関する研修会等で事例検討として情報共有してもよいのではないかと。卒業生クラブは、卒業後3年間までの卒業生の余暇活動の充実に向けて、2か月に1回程度活動を企画・実施している。今年度も感染症対策に努めながら全教員が分担して活動支援に当たっている。
- (7) **生徒指導部**では、生活・読書指導、学校行事、児童生徒会のいずれも高い評価を得ている。学校行事にあたっては、今後も新型コロナウイルスの感染状況に応じた対応を迫られることが予想押されるので、今年度の取組を基に検討していく必要がある。
- (8) **保健指導部**については、約92%以上の割合で「達成」、「ほぼ達成」の高い評価であった。全職員が一丸となって感染症等の対策に取り組めた成果であり、今後も継続した取組を行いたいと考える。
- (9) **渉外部・分掌その他**では、それぞれの係において、高い評価を得ているが、自由記述では、一心会の会計報告に関する意見が挙げられている。本校だけで解決できる内容ではないが、一同に会して集まる機会がなくなったこの機会に紙面による報告という視点から意見を挙げる方法もあるのではないかと考える。

Ⅲ その他

1 評価結果

	質問項目	結果			
		1 思う	2 まあまあ思う	3 あまり思わない	4 思わない
(1) 学校全体	ア 職員会議は計画的に実施され、適切な審議がなされている。	19 (76%)	5 (20%)	1 (4%)	0 (0%)
	イ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。 (運営対象者のみ)	12 (85.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)
	ウ カリ・マネ委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(対象者のみ)	7 (63.6%)	4 (36.4%)	0 (0%)	0 (0%)
	エ 自分にとって公務上必要な情報が適切に伝達されている。	13 (52%)	10 (40%)	2 (8%)	0 (0%)
	オ 学校行事(年間、月)は、適切に組まれている。	15 (60%)	10 (40%)	0 (0%)	0 (0%)
	カ 学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる。	2 (8%)	21 (84%)	2 (8%)	0 (0%)
	キ 学校の年間指導計画を活用して、計画的に指導や支援の充実を図っている。	10 (40%)	15 (60%)	0 (0%)	0 (0%)

	<p>ク 学校の教育課程全体で、組織的に児童生徒を育てていくように意識している。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>12</td><td>48%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>52%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	12	48%	2	13	52%	3	0	0%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	12	48%															
2	13	52%															
3	0	0%															
4	0	0%															
	<p>ケ 目指す教育活動のためには、ときには厳しい相互批評もいとわず議論するようにしている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>24%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>48%</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>28%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	6	24%	2	12	48%	3	7	28%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	6	24%															
2	12	48%															
3	7	28%															
4	0	0%															
<p>(2) 学部・学級</p>	<p>ア 学部会は計画的に実施され、学部の運営は、工夫・改善されている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>21</td><td>84%</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>12%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	21	84%	2	3	12%	3	1	4%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage														
	1	21	84%														
	2	3	12%														
	3	1	4%														
	4	0	0%														
	<p>イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>32%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>56%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>12%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	8	32%	2	14	56%	3	3	12%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	8	32%															
2	14	56%															
3	3	12%															
4	0	0%															
<p>ウ 学級のペア間で情報の連携が適切に行えている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>14</td><td>56%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	14	56%	2	11	44%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	14	56%															
2	11	44%															
3	0	0%															
4	0	0%															
<p>エ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>10</td><td>40%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>56%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	10	40%	2	14	56%	3	1	4%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	10	40%															
2	14	56%															
3	1	4%															
4	0	0%															
<p>オ 学級経営に係る仕事は工夫されている。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>9</td><td>36%</td></tr> <tr><td>2</td><td>16</td><td>64%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	9	36%	2	16	64%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	9	36%															
2	16	64%															
3	0	0%															
4	0	0%															
<p>カ 同僚と共に、児童生徒の成長を伝え合い、喜びを共有している。</p>	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>22</td><td>88%</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>12%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	22	88%	2	3	12%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	22	88%															
2	3	12%															
3	0	0%															
4	0	0%															

(3) 授業	ア 授業ミーティングは効果的に活用されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>21</td><td>84%</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	2	8%	2	21	84%	3	2	8%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage														
	1	2	8%														
2	21	84%															
3	2	8%															
4	0	0%															
イ 組織的に取り組む授業研究は、学校の課題解決に役立っている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>12</td><td>48%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	12	48%	2	11	44%	3	2	8%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	12	48%															
2	11	44%															
3	2	8%															
4	0	0%															
ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>10</td><td>40%</td></tr> <tr><td>2</td><td>15</td><td>60%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	10	40%	2	15	60%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	10	40%															
2	15	60%															
3	0	0%															
4	0	0%															
(4) 個人	ア 個人でテーマを持ち研究を進めている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>4</td><td>16%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>48%</td></tr> <tr><td>3</td><td>8</td><td>32%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>4%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	4	16%	2	12	48%	3	8	32%	4	1	4%
	Rating	Count	Percentage														
	1	4	16%														
	2	12	48%														
3	8	32%															
4	1	4%															
イ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>28%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>56%</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>16%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	7	28%	2	14	56%	3	4	16%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	7	28%															
2	14	56%															
3	4	16%															
4	0	0%															
ウ 学習指導要領改訂など、教育施策の動向に関心をよせ、学ぶようにしている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>10</td><td>40%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>52%</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	10	40%	2	13	52%	3	2	8%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	10	40%															
2	13	52%															
3	2	8%															
4	0	0%															
エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>4</td><td>16%</td></tr> <tr><td>2</td><td>15</td><td>60%</td></tr> <tr><td>3</td><td>6</td><td>24%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	4	16%	2	15	60%	3	6	24%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	4	16%															
2	15	60%															
3	6	24%															
4	0	0%															
【自由記述】		<ul style="list-style-type: none"> ・時期によっては時間外勤務が増えてしまうが、周りの先生方は協力的で助かっている。 ・ただでさえ仕事量が多い職場なので、もう少し仕事が公平に分担されるとよい。個人的には偏りがあるように感じた。 ・授業研究については、何をねらう授業研究で、どのようなやり方でやるのかを明確にして、今後取り組むことが必要であると感じる。 															

2 考察（学校全体、学部、個人に関する）

(1) 学校全体

9項目中8項目において、9割の職員が「思う」「まあまあ思う」と評価している。項目ケの「目指す教育のためには、ときには厳しい相互批評もいとわず議論するようにしている」は、約28%の職員が「あまり思わない」と評価しているが、「思わない」という職員は該当せず、約7割の職員が「思う」「まあまあ思う」と評価しているので、今後も教員間で学び合うことのできる雰囲気醸成していく必要がある。

(2) 学部・学級

6項目全ての評価項目において、約97%の割合で「思う」「まあまあ思う」と評価している。それぞれの学部内、学級内での取組は、教員が互いに協力しあい、複数の教員で児童生徒の教育を行うチームティーチングのよさが学部・学級運営にも生かされていると考える。

(3) 授業

3項目のうち2項目において、特徴的な傾向が見られた。授業ミーティングを効果的に活用していると思う職員が8%で昨年度の約30%と比べると「まあまあ思う」という評価に流れている。一方、「ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる」の項目は、昨年度は、四つの評価に分かればらつきが見られたが、今年度は全体研究のテーマが知的障害の子どもの深い学びの実現に、向けての授業づくりであったため、全ての教員が「思う」「まあまあ思う」としている。

(4) 個人

項目イの「担当している部や係などの仕事を負担なく取り組んでいると思う」や項目ウの「学習指導要領など教育施策の動向を学ぶようにしている」を「思う」と評価している教員が増えている傾向が伺える。昨年度約54%の職員が「ア 個人でテーマを持ち研究を進めている」を「あまり思わない」と判断していたが、今年度は、約6割の教員が各自でテーマをもって研究を進めていたようである。項目ア、イ、ウのそれぞれが相関しているように考える。今後も附属学校の各教員は、実践と研究を推進できる人材であることを踏まえると、各個人で深めたい研究テーマも大事にしたいと考える。一方、「エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している」は、約4人に一人が「あまり思わない」と捉えているようである。本校が地域のニーズに応え続けるためには、様々な立場でリーダーシップを発揮できるような人材育成が必要である。

IV 保護者アンケート

1 評価結果

※4件法（A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない）でアンケートを実施し, Aから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し, それぞれ平均値を算出した。

	質問項目	全体平均		
		H30	R 1	R 2
教育活動	① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標に添った取組がなされている。	3.6	3.7	3.7
	② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。	3.7	3.6	3.7
	③ 子どもたちに応じた特色ある学校・学部行事が行われている。	3.7	3.7	3.6
	④ 連絡帳や学級通信等は, 学校や授業での取組をよく伝えてある。	3.7	3.8	3.6
	⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく, 子どもの成長や課題をよく伝えてある。	3.6	3.7	3.7
	⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は, 分かりやすい。	3.6	3.6	3.7
	⑦ 個別の指導計画による具体的な取組は, 分かりやすい。	3.7	3.5	
	⑧ 教師は, 子どもをよく理解し, 真剣に対応している。	3.8	3.8	3.7
	⑨ 教師は, 保護者の悩みや相談に親身に対応している。	3.6	3.8	3.7
	⑩ 教師の対応は, 丁寧で適切である (子どもとの関わりなど)。	3.8	3.8	3.8
教育環境	⑪ 充実した教育活動を行う施設や設備が整っている。	3.0	3.0	3.2
	⑫ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。	3.4	3.2	3.4
	⑬ 危険箇所などへの対応, 安全配慮がなされている。	3.4	3.2	3.5
連携	⑭ 学校は, 家庭と子どもの目標に協力して取り組んでいる。	3.6	3.6	3.5
	⑮ 学校は, 家庭と日常的に連絡を取り合っている。	3.7	3.6	3.7
	⑯ 学校は, 保護者の研修に対して協力を行っている。	3.7	3.6	3.5
	⑰ 学校は, 地域や関係機関との連携を十分にとっている。	3.5	3.5	3.5
その他	⑱ PTA活動は, PTA会員の意思を反映し, 計画的に行われている。	3.5	3.2	3.5
	⑲ 子どもは, 毎日楽しく登校している。	3.8	3.8	3.8
	⑳ 子どもの成長を感じている。	3.8	3.7	3.7

2 保護者自由記述 (○:良好 △:御意見 原文のまま)

- 先生方に限られた環境・資源の中で最大限取り組んでいただいていますことにはとても感謝しています。
- △小学部での日常生活の指導の重要性を考えると更衣のための場所やトイレの環境にはスペースや設備、機能性の面で課題があると思います。
- △④(連絡帳)に関して学校からのコメントは十分にいただいておりますが、給食、体調、担任確認印などの記載不十分が多い。プレイルームの隅々カーテンの劣化が目立つ。少しずつでも買い替えしていただけたらと思います。
- △もし可能でしたら鉄棒を設置していただけたらよい。
- ⑮⑯(表では⑮⑰)の項目については具体的な事象が思い付かず回答できませんでした。結果公表の際に教えて頂けたら有難いです。
- △お手洗い等昔風で古いなと感じます。ただここでできればどこでもできるだろうとも思い、子どもに対して「頑張れ」と思っています。先生方、保護者の皆様のやさしさやあたたかさにはいつも感謝しております
- 毎日学校に楽しく通えているのは先生方やお友達のおかげです。いつもありがとうございます。
- △子どもたちの持ち物の間違いや持って帰ってくることを忘れることも多いので高等部になって実習先で自分の持ち物を管理できるように小学部のときから少しずつ今日持ってきたものをまずチェックさせ、帰り(曜日に合わせて)持って帰る物をチェックさせる時間を作ってもらえたらと思います。
- いろいろと変更のあるなか学校に行きたいという思いが強く感じられありがとうございました。⑮⑯(表では⑮⑰)はよく分からなくてすみません。
- いつもお世話になります。コロナで大変な一年でしたが、そんな中対策をとって行事があり感謝しています。ありがとうございました。
- 日ごろから親子共々大変お世話になり先生方には心から感謝申し上げます。②について、今年度は学校に慣れることを最優先とし、「一日落ち着いて過ごせたら○」「スムーズに移動ができれば○」というスタンスで学校生活の様々な取り組みを見守ってまいりました。来年度は(本人の様子を見ながらですが)教科担当の先生方ともよくつながり、日ごろから様子を伝え合うことができるよう努めたいです。
- 普段通り学校への信頼ももっていますが、どのようなときでも挨拶等でお互い歩み寄ることが子どもたちの教育に繋がるのではと思います。学校の先生方には感謝しかありません。
- △⑭についてですが、新学期が始まって早々休校になったとき、メールでの体調確認だけではなく、担任の先生方からのお電話が1回でもあったらよかったのにと感じました。学校が再開されたとき、子どもが不安そうでした。

3 考察(保護者アンケートに関する)

- 1 教育活動においては、全ての項目において、4点満点の3.6~3.8の高い評価を得ている。しかし、わずかではあるが、「④連絡帳や学級通信等は、学校や授業での取り組みをよく伝えている。」の項目に関しては、過去3か年で一番低い評価となっている。今年度は、1学期に緊急事態宣言を受けて臨時休校があり、コロナ感染症予防の観点から様々な行事等が変更になったことに伴う保護者の不安な心情が反映されていることが自由記述からも伺える。公開可能な情報は早めに提供しつつ、昨今の感染症の状況を踏まえ、これまで同様に保護者の思いに寄り添いながら、対応していきたいと考える。昨年度に質問項目として挙げられていた「個別の指導計画による具体的な取組は分かりやすい」の項目は、今年度書式検討を試みており、経過途中であり保護者に具体的に示すまでは至っていないため、今年度項目からは一旦外している。
- 2 教育環境においては、例年、他の項目と比較すると低い評価となっていたが、今年度は3つの項目すべてが昨年度に比べ0.2ポイント以上、上がっている。昨年度の経営戦略経費の予算で改善できた部分があり、PTA新聞等で保護者に具体的に発信したことが評価につながった背景として考えられる。今後も、保護者の理解をいただきながら児童生徒の教育に当たっていきたい。
- 3 連携においては、学校と家庭や地域との連携は、4点満点中3.5以上の評価を得ている。項目⑯⑰に関しては、一部の保護者から「どう評価してよいか分かりにくい」という意見が挙がっている。質問項目の内容を具体的に提示するとともに、地域や関係機関との連携を具体的に分かりやすく学部だより等を活用して発信するなど、保護者への発信方法を検討することで改善につながると考える。
- 4 その他に関しては、今年度の「⑰PTA活動は、PTA会員の意思を反映し、計画的に行われている」が昨年度と比較して+0.3であった。PTA執行部を中心に改善点等工夫しながら、誰もが参加しやすい活動内容に努めた結果だと考える。今後も保護者の意見を真摯に受けとめ、改善できることは改善し、連携取りながら児童生徒の教育にあたっていきたい。